第二十四號　THE TAIRASHIMPO　大正十五年十一月廿五日
（大正十四年十二月一日第三種郵便物認可）

No. 24

平新報

發行日毎月三回
五ノ日發行
發行兼編輯印刷人　山野邊庄吉
發行所　福島縣平町南町七七　平新報社
廣告料五號十二字詰一行一回五拾錢　場所指定倍增
送料共定價一部拾錢

大政奉還史論【五】

元磐城中學校敎諭　荒木三郎述
茨城縣土浦町築地町

さて幕府は半歳餘を費しても未だ征長軍をくり出さない。慶應二年の五月になつて幕使は長藩主父子に責罰を申渡し、只管長藩からの謝罪を待つて居たのは餘り愚であつた。なぜといふに元來幕府へ反抗する主義の高杉等であるから一戰したくては居るが、謝罪などする筈はないことは明かである。それだから長藩では幕命を突返した。かうなると幕府も振り擧げた拳の仕舞ひ處に窮するから無理にも出師しなければならぬ、そこで六月に諸藩の兵を發したが氣乘りのせぬこと甚じかつた。それで幕軍は到る所長兵に破られて聊も勝利はなかつた。これでいよ〱幕威は下落して零となつた。これが幕威墜落の第四段の大詰であつた。

さる程に將軍家茂は八月二十日病を以て大阪城に薨じた。朝廷では喪中の事だから解兵せよと御沙汰を下した。幕府はこれをよい汐時として九月に征長軍を引揚げた。十二月になつて慶喜が宣下を賜はつて第十五代將軍となつたが、その月二十九日には　天皇の崩御があつて、明くる慶應三年の正月に古今の英主なる　明治天皇が御年十六で御踐祚あらせられた。五月になつて長藩の處分を寛大にすること、兵庫開港を許すことの二件が朝議で決せられることになつた。

薩長の間柄は互に反目の姿であつた。然るに幕府に見切りをつけた薩藩の西鄕吉之助（隆盛）の如きは內密に兩藩の和解を計り土佐の坂本龍馬薩摩の大久保市藏（利通）小松帶刀長州の桂小五郎（木戸孝允）等と共に運動したから、兩藩の識者の間には同盟が成立してゐたのである。それだから薩藩は長州再征の時の出兵を幕府に拒んだほどであつた。征長軍の失敗後は兩藩の討幕計畫が益々進捗し坂本龍馬等の周旋で、太宰府幽居の三條實美や京都郊外の岩倉村の屏居の身となつて居た岩倉具視と相通じ討幕の密勅を請ひ奉る勢となつた。幕府の倒壞は唯時間の問題のみとなつたのである。

土佐の前藩主であつた松平容堂は時勢を察して德川氏の爲に計らうと考へ家臣後藤象次郎、福岡藤次（孝弟）を上京させ書を慶喜に呈して大政の奉還を上申した。賢明なる慶喜も疾くに時勢の止むべからざるを察し、十月十三日加賀、薩摩、仙臺、尾張、紀州など四十藩と群臣とを二條城に會しその意を告げた。其の大旨は

方今外國との交際日に盛になるにより、我が國は政權一途に出で聖斷を仰いで天下の公議をつくし同心協力して皇國を保護して往けば、必ず海外各國と對立することが出來ると思ふ。我が國家に盡す所は之に過ぎない。因つて政權を朝廷に歸し奉る存念である。

といふので、列座の者は事の意外に驚いたが格別異議を言ふ者もなかつた。小松帶刀や後藤象次郎などは將軍が國を思うて家を思はぬ盛意を賛した。かくて其の翌日慶喜は參內上奏して政權を奉還したいと請うた。十五日許可の御沙汰が下つた、ついで慶喜は征夷大將軍の職を辭した。十一月二日には復古政治の基本を如何に定むべきかについて慶喜にも御諮問があつたが、これは當然のことで、實は慶喜の英斷が意外であつたから朝廷でも戸惑ひをして**大政**經略の方針も頓には定らなかつたのである故荻野文學博士曰く世には慶喜の政權奉還の意志は後藤福岡等の大議論によつて決したといふ者もあるが、それは誤である。慶喜は時勢を洞察し、我が手によつて幕府を葬らうといふことは就職の初から考へてゐたが、奉還後如何にして政府を組織すべきかの案を得ない然るに土佐の建議に上下兩院で公議輿論を以て議定すとあるので、是れならば王政復古の素願を遂せられるであらう、しかし發表すると部下が騷ぐであらうからといふので唯腹心の者と議したのみで腹は既にきまつて居たのである。十三日に後藤等の申した所は「有り難い思召で」と答へただけである。

初め岩倉具視が中心となつて、西鄕、大久保等と共に討幕の密議を凝らし幕府を討滅して天下の耳目を一新せねば天下は治らぬと考へ、十月十四日にその密勅が薩長の二藩に下つたのである。然るに炯眼なる慶喜に大政返上といふ先手を打たれて一手後れたために、此の一件は秘密の中に葬られてしまつたが、何とかして幕府に一擊を加へて戰爭を起し、この一新手段を遂行したいと密々に計畫して居た。十二月九日になつて、先づ具視に復飾參內を命じ公卿諸侯及び尾越薩土の重臣等を召され、天皇出御の上宣旨を以て攝關幕府を廢し、假に總裁議定參與の三職を任じ、公議をつくし天下と休戚を同じくする旨を仰出された。さうして實權は全く具視の手に在つたが、その身は參與の一人たるに過ぎなかつた。この儀禮にわざと慶喜を初め幕府方の者は一人も加へず又一人も職を授けなかつたのは之を激せしめる手段であつたこと勿論である。

この時慶喜は二條城に居たが翌十日になると朝廷から大將軍の罷職及び辭官納地の內諭が下つた。臣僚は昨日の模樣も知つたし又今日の事も傳はつたからその忿懣は一通りでない特に會津桑名の二藩は德川の親藩であるから、とても此のまゝに默止し終るべき樣子はない。慶喜は朝廷に對し將軍の罷職は命を奉ずるが辭官納地の儀は物情の鎭まるまで待たれたいと請うた。この會桑二藩の憤激は岩倉等の待ちもうけた所であるから、慶喜はその手に乘つてはならぬと考へたと見えて、輦轂の下に事が生じては畏多いといふので十三日部下を率ゐて大阪城に去つた。さうして十九日に上書して「政權返上の際に仰出された趣もありながら自分への相談もなく又列藩への御諮詢もなく、唯一兩藩の兵を用ゐて宮門を固めさせ未曾有の大變革を仰出されたのは實に驚くの外はない。これといふも主上が御幼冲にましますを奇貨として、聖斷を矯める輩が勝手なことをするかにも思はれて甚だ宜しくない旨」を論じた。實に道理である。然るに岩倉、西鄕等は何處までも舊幕府方を激昂させて戰爭を物にしようといふのだから慶喜に取つては最もよくない相手であつた。到頭平和は破れることになつた。

これよりさき西鄕隆盛は江戸の薩藩邸に浪人無賴の徒を集め、四方に放つて江戸內外の各所に放火掠奪を行はせた。幕臣等が之を捕へようとしたら薩摩屋敷へ逃げ込んだ。薩藩へ掛合つても引渡さない。其の中に十二月廿三日の夜には江戸城の二の丸が燒けた。

○。○。○。○。○。

新妻熊男氏入營

本紙上に「歌道漫語」と題して上代歌謠の形式論を連續寄稿された新妻熊男氏は十二月一日一年志願兵として、千葉縣下志津近衞野戰重砲兵第四聯隊に入營する事になつた。氏は四倉町の產、磐中二十一回卒業生にして今春國學院大學を了へ引續き在京日本歌謠を研究されてゐた若き眞摯なる學究の徒である。本年二十四歲。吾人は氏の大成を期待して止まぬ因みに四倉出發は本月二十九日午前拾時二十五分

歌道漫語（三）

新妻熊男

次に片ウタ（かたうた）と長歌の形式に就いて貴び殘しがあるがこの片ウタは上代に於ける最も簡單なウタの形式であつて從つて、內容なども極く單純なやうであつた。されば歌詞などにも、幾多の整つてゐない點のあることは勿論である。前述の五、七の基本位に更に七音一句を添へたものが後世稱する所の片歌の形で

はしけやし　わぎへの方よ
雲居起ち來も

これなども第一句が四字音であるけれども、やはり片ウタである普通のウタよりは短かくして足らざる所がある爲めにかく稱せられたものと思はれる。これは日本武尊が東國を御征服の後、伊勢國の能煩野に到りまして、國偲びの折に詠まれた思國歌の片ウタで「國を思ふて空を見れば懷かしい故鄕の方から雲が起つて來るよ」と思慕の情に堪えず、さしも一世の武人日本武尊も御病重らせ給へる時、歌人的意識に立ちかへられて、かくは故鄕大和の日代宮を懷かしまれたのである。記紀のウタは大抵その過半數は赤裸々な敍述を試みられてある戀歌であるが、日本文學に特有な花鳥風月を感賞するとか、物のあはれをウタひ出すなど〻云ふ事は殆んど無いと云つても宜い位である然しこれ（右に記した片ウタの例）などは敍景のウタとしては取るべきものであるが、而も純然たる敍景のウタでは無く、景に寄せて自分の思慨を敍べたもので後世の所謂之は「寄物陳思」の類であると思ふ。即ち詩經の六義の比とか興など〻云ふ体製のウタである。一体大自然に對して人事を偲んだり、又は人事に就いて自然の景物をウタふと云ふやうな事は我が國文學上後世に於て常に見る所であつて、日本武尊の時代早くもこの萠芽を見ることは注意すべきことである。日本武尊は歌人としてよりも、武人的意識の勝つてゐられた方で、景行帝が武尊に東夷を征討せしむるの詔によると「前略……今朕察二汝爲一レ人也、身体長大、容姿端正、力能扛レ鼎、猛如二雷電一、所レ向無レ前、所レ攻必勝、即知之、形則我子、實則神人云々……」とあれば如何に武尊は豪勇無比なる方だつたか窺ふに難くはない。

五七の音を三個以上連れて更に七音一句を添加したものが即ち長歌の形であつて、上代の歌謠には之の戀態的のものを多く見受ける事が出來るが、それも要するに上古の簡朴な狀態に相應じて、其の思想なども極めて單純であつて形式も自由に放姿な表現を試みた爲めに非常に複雜である。今正しい形の長ウタを一つ擧げてみる。

瓜食めば　子供思ほゆ
栗はめば　まして偲ばゆ
何處より　來れるものぞ
まなかひに　もとな懸りて
安寢しなさぬ

この例は少々後世の長歌であまり形も歌詞も整ひ過ぎてはゐるが右の樣に五七を三個以上連れて更に七音一句を添へた体のものである右の長ウタは萬葉に在るされてある山上憶良の子供等を思つて作れるもので、古來有名なウタである子煩惱な憶良を良く現はしてある「白がねも、黃金も玉も何せんに、まされる寶子にしかめやも」の短かはこの長ウタの反ウタになつてゐるもので長ウタの意味は「瓜を食へば子供のことが思ひ出され、栗を食へば更にしのばれる。子供といふものは一体何の因緣で何處から來たものであらう。絕えず眼の前にあつて、夜もおち〱眠られない」憶良は漢學や佛籍に通じ多感にして妻を愛し、子煩惱なりし事はその例を多く見ざる程で、最も鮮明に國士の風格を具備して時には奇矯に過ぐる純乎たる國民詩人であつた。この長ウタの思想は佛教因果觀であるは勿論で上古に於てはこんな思想は見られないといつても宜い。

兎も角も之で簡單ではあるが、上代のウタの形式の一班を述べたことにするが、この他連歌（これは室町時代以後隆盛になつたが日本武尊と御火燒の老人との唱和に於て三十一文字の連歌の源を發して居る）や、之が一轉して俳諧再轉して發句と云ふ平民詩を生ずる迄の事や、又は歌謠の種類即ち士氣を鼓舞する軍歌とか、追悼の意を表する挽歌、新築を祝福する賀の歌諷刺の意味を寓する童謠（わざうた）或は戀歌など〻云ふ事迄默吹らうと思つたが何れ暇を得てからにする。素晴らしい出だしで蛇尾にも及ばぬ結果振りであるが既述の說の多くは獨斷的な極めて危險性を有して居るものが多いこと〻思ふ。何分とも先進諸賢の御指示を仰いで止まぬ。「完」

紙屋の慶事

平町二丁目紙屋呉服店「區長」山崎孝之助氏嗣子賢助氏は一丁目仙臺屋呉服店明智淺吉氏三女トミ子サンと婚約成り來十二月五日の吉日を卜し華燭の典をあぐと新郎は溫厚篤實有爲の青年にして新婦は磐高女出身の才媛である兩家は從來の緣族の事此の上なき良緣と申すべきである

鹽屋の御目出度

平町鹽屋山崎與三郎氏長女キヨ子サンに江名町吉田正雄氏令弟忠兵衞氏を迎ふる事となりそれが結婚式を來春匆々吉日を卜して擧行する事になつたと因みに新婦は磐高女出の才媛、新郎は目下慶應大學在學中である

額賀醫院の慶事

四ツ倉町額賀醫師は長男誠氏に平町仲間町殿木リウ孫女テル子サンを迎ふる事となり來る舊拾日結婚式を擧ぐと、因みに新婦は磐高女出身の才媛、新郎は磐中出身目下在京中

長瀬君の入店を祝して

平町二丁目關內油店では今回二丁目長瀬綾治郎氏を迎ひて諸般店務に當る事にした右に對し

二丁目坂田藤助氏は

きんせん花
床に永々
ながめたし
兆庵坂田章魚

趣味と所藏

尙古會銘々錄（七）

鈴木堅助氏

著名なる平町西村屋藥舖の御隱居さん祖父尼橋氏の孫だけに愛藏品はなか〱珍品を持つて居る

趣味としては孺者物及び南畫道具等で藤田東湖の書中村不折の拾五羅漢等は優品であらふ。最も珍品は時折さげる煙草入の金具、作者は不明なれど蝶つがへの中は相對性の珍物で知らぬが佛、酒間の折御注意あれば觀る事が出來るとの事

野崎滿藏氏

石城憲政會に其の人ありと地方より重きを置かれる平町林家の旦ツクで所得稅調査員にもなつた許り、町會議員であり次回の縣議候補者？趣味は軸よりは道具の方多い、荒神樣を恐ろしいのか買つては、何時でも品をソツと持ち込み何を云はれても、禪味を意得して居るのか無言の行に入つて居るとか

愛藏品は刀劍で近江大椽忠廣の美しい拵付、近代の有名な畫人の軸佛像等である最も優品は南洋渡來の「ドラ」令弟喜八郎氏の土產品である

人物管見

地方行脚に際し記者の耳目に接した活躍の人々（一）

記者　藤田孤峰

志賀兼吉氏　豐間村

消防組頭志賀兼吉氏は明治拾二年生れの前途有爲の士である現職に有る事二十有餘六年、かつては郡會議員として郡議會に立ち善く大政を論じ現在は町村制により村會議員の要務にあり村政の爲め努力して居る。

鈴木文次郎氏　同村

組頭代理鈴木文次郎氏は善く志賀氏を助けて二十五年一日の如く豐間消防組の爲め盡された氏であると、氏も亦同村村稅調查員の要務にあり村政の爲に盡す豐間村の恩人である氏は志賀氏の從兄弟に當り同じく四十八歲の前途有爲の士である

鈴木喜太郎氏　村民

畏敬の的となつて居る高久村神谷作銘酒小錦の酒造家和泉屋主鈴木喜太郎氏は現高久消防組頭の重職に在り溫厚篤實の士で在る前村會議員を勸め善く村治の爲盡して來た人で在るか〻る有爲の組頭を戴く高久消防組は鄉土の誇りであらふ。

植田町
本町
森合齒科醫院
森合芳男

植田町
電話一〇七
片岡醫院
慈惠醫學士
院長　片岡章

平和削節
製造販賣
鈴木道太郎商店
湯本驛前
◇最上鷄餌魚肉粉

當用日記
懷中日記
カルタ、トランプ
カレンダー
毎日年鑑
取引迅速、取引正確
平町四丁目角
マルトモ柴田書店
電話二三四番

○。○。祝貴紙の發展を○。○。
醫學士　木村守江
大浦村木村醫院

▼營業案內▲

鋏調髮	四十錢
調髮	三十五錢
顏剃	二十錢
御小兒調髮	二十錢
小學生は特に	十錢
男子白毛染	四十錢
婦人白毛染	一圓二十錢
御婦人洗髮	三十錢
ヘーヤアイロン	廿五錢

平町一丁目
比佐理髮舖

內科、小兒科、皮尿科
藤名醫院
平町紺屋町
電話五〇七番
御入院の需めに應ず

平町四丁目
[illegible]醫院
電話五〇八番

[illegible]醫學博士推奬
不思議な滋強靈液
養命酒

畏れ多くも皇室御買上の光榮を荷ふ
三百年の歷史を有するマムシ酒の靈能
アラユル醫藥療に飽いた
肺結核肺炎カタル、ロクマク、神經衰弱、腦病、精力減退
病後の衰弱、虛弱性の人、胃病、婦人病等に惱む人々よ
偉効眞に驚く此のマムシのエキスを直ちに服用せられ
て其眞價を知られよ「善は急げ」である
定價試用分壹圓五拾錢　德用分貳圓
發賣元　信州天龍館東京支店
特約代理店　山野邊藥局
平町五丁目角

農民讀本

◆農村研究の權威者
◆農學士富田文雄著
◆菊判百八十頁製本堅牢
◆定價七十錢送料八錢
◆內容一斑左記に掲出す

貧乏村の一青年とその若き妻が鄕土の開發に志して十年。內にありては一家の經營に、外にありては青年團長婦人會長として常に青年處女の先達となり、友となり遂に推されて村長となりては敎育の普及から組合の振興。農業經營の改善から海外への發展とあらゆる奮套と情弊に打ちかつて驀らに進む彼等の前に、光明の世界はや〻に開けた。純眞な耕一！熱血あふる〻俊三！可憐な田美子彼等が遂に優良村を建設するに至つた一篇の物語に托して著者は興村の道を說く。行文流麗興味津々論旨明確引例豐富、補習學校課外讀本として又農村敎育家指導者當業者の好伴侶として得難き良著！切に江湖の一讀を薦む。

農民叢書發行所　米本書店
東京市神田區錦町一丁目一番地
振替口座東京五二三三九番

目次概要
一、いたましい村の姿……模範村の一日……頭をこやすちか道は……農の光……勞働の歡喜……組合製糸工場見學……卒業の日……社會改造よりも自己改造……闇にもしろき花の香り
二、青年團の目的は何か……青年の敎養……青年團の事業……青年團の修養團化
三、名ばかりの婦人會……處女會の事業……樂しい宿泊講習
四、村是の確立……實業補習學校……社會敎育と社會事業……產業組合の復活……土地共同管理……農會と農事實行組合婦人農會生る……職業紹介所と海外興業協會……農村娛樂の建設……珈琲の花
五、黎けゆく村……咲く南米から

特約店
磐城國平町二丁目
振替口座東京五三八八番
清光堂書店
電話一三一番

御禮廣告

今回綿布暴落に際し弊店獨特の特價提供を仕りし際は四回迄も御引立により賣り拂ひたるため御禮の印迄に惠比壽講賣出し仕り候處二日間の豫定たりし處一日の延期のやむなきに至りし如き大盛況に終了を告げし事は偏へに皆々樣の御同情によるものと店主店員一同謹んで厚く御禮申し上ぐる共に御厚志に背かず今後とも大勉强仕るべく候間倍舊の御引立を伏して懇願致す次第に有之候右不取敢紙上を以つて御禮申し上ぐると共に御願ひ申し上げ度候

平町三丁目
亀
中野呉服店
電話六十七番

洋服と外套類

背廣三組	拾圓五拾錢ヨリ
詰襟上下	拾壹圓ヨリ
オーバ	八圓ヨリ
トンビ	拾圓ヨリ
モヂリ	五圓ヨリ

其の他例に依つてイロ〱な防寒具を取揃へ
また
何卒御用命を

あかや洋服店
磐城平試（電二〇三）

復湯せる湯本温泉町
松柏館浴場改築成る

湯本町温泉旅館では湯本温泉の湧出復活と共に當館主榮一氏は早くも旅客の優遇には浴場の改良に在りとなしそれが改築を今夏より着工し漸く今回竣工を見た

同浴場は館主榮一氏の設計になるものとか、すゝ竹を用ひたる事や、光線の具合と清麗なる點に於て常磐海岸線に於て最優たるものであると稱され、東山や飯坂以上のものであると申しても過言でないと云はれ新設の浴場にヒタリたる浴客は皆々滿足と稱讃の言をなして居る。同新浴場の寫眞紹介は製版の都合上次號に讓る事とするが工程は約六ケ月工費六千余圓請負は品川白煉瓦會社の技巧を凝らせるもの推して知るべきであらふ。

瘦れかゝらんとする我が歴史ある湯本温泉町も同館主榮一氏や郵便局長鯨岡潔氏等の若き人々の努力によりて復活の曙光が見えて吾人心強きを感ずるものである切に湯本町有識者がこれら若き人々の意を汲んで善處され湯本町の復活に協同戰線を張られ客の吸收法に於て時代に順應せる設備をさせん事を切望してやまざるものであると共に兩氏等の自重自愛郷土のため活躍を囑するものである

松柏館正門

電特長五番

天恩枯骨に及びたる
明治維新尊王の士
松井秀簡氏の碑
除幕式二十八日行はる

大正十三年二月十一日東宮御成婚式當日本縣下に於て四名贈位されたその一人たる本郡泉村松井清水氏「汲先代清水襲名」祖父故秀簡氏は明治維新の心厚かりし故を以って

從五位 に贈位されたので先代清水氏がそれが碑の建立を志し今回泉鄕社訪諏神社境代に建立終り來る二十八日午前拾時より同境内に於て知事を初め地方有志並びに新聞記者等參百五十名を招きて除幕式を擧行する事になつた倘は當日秀簡氏の事蹟及祝文詩歌等記載し余光集と題する書「四六版百余頁もの」を知己有志に贈配する筈である

因みに舊泉藩士たる秀簡翁は明治戊辰の役奥羽列藩連盟して會津藩を援け王師に抗せんとするや氏は郡奉行の職に在り固く大義を持し切に名分を論じて大に勤王の儀を唱へたが大勢佐幕に傾ける藩論は動搖如何ともし難く其の彰義隊の來りて軍資を强要するや藩議之を容れ領民に徵募せんとするや氏獨り從はず敢然として之を斥けて曰く「普天率土何れか王土王臣に非ざらん、今乃ち軍資を王士に課するに王師に反くの資を以てす、無道是より甚しきは莫し」と辯難論擊至らざるなく遂に藩議を飜し縱に大義を持するを得たるも其官軍の城塞に迫るに及び遂に出て之に抗するに至り、氏悲憤慷慨吾事終れりと遂に意を決し城外鹿島神社に詣り從容として自刄し以て臣節を完ふしたのである其誠忠義烈遂に藩士を感激せしめ飜然として朝命に歸順するに至らしめたといふ氏の純忠節義長くも **天聽** に達し曩に從五位を贈られ其功を追賞されたが天恩枯骨に及ぶとは此の事今回清水代先代清水氏の遺志を紹き碑を建て除幕式の典を擧ぐ、聖代の慶事と申すべきである

二八會
於松柏館

磐中拾六回卒業生を以て成る二八會例會は例年八月夏季休業を期して開催する事になつて居つたが本年の開催地は湯本町と內定して居つたので會場指定所たる松柏館の浴場の落成を待つて去る二十一日午後五時半より新設の温泉浴場にヒタリながら歷史的に情緒纏綿たる……ローマンスと湯氣の煙りの中、…………湧出の湯にも劣らぬ情を温めた同館の三階の座敷と料理美妓いつれも温泉にふさはしいもてなしに滿足し解散した當日の出席員は招待した左の目下母校に在職中の舊師三先生と左の會友である

中根松次郎先生

山崎宣吉先生

藤平太先生

□植田町齒科醫學士

森合芳男氏

同石炭米穀商　小野保氏

□草野郵便局長　新妻恭孝氏

□湯本町入山採炭會社　大越新氏

同郵便局長

鯨岡潔氏

同　松柏館主

比佐榮一氏

□平町月見町（監督車掌）　高野益藏氏

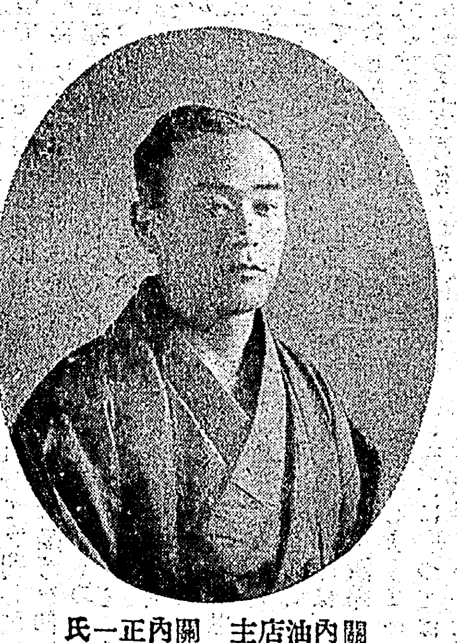
同新川町砂糖商

吉田義男氏

同釜屋會計

諸橋元三郎氏

同平新報社　山野邊庄吉



關內油店主　關內正一氏

他地方會友が都合上不出席たりしは遺憾であつた次回の會合は例によつて平町に於て新年會として明年一月上旬開催する事により會友諸君の出席を切望す　山庄記

大人會（たあたあくわい）

石城地方人にして朝鮮滿洲方面を視察旅行せる人々を以つて成る大人會にて之れが第二回の會合を去る十一月拾日夜平町谷口に於て開催した目下の會員左の人々である

小名濱町長　鈴木榮氏
元平町長　伊坂員正氏
磐城中學校長　滑川一郎氏
全女學校長　櫻井賢文氏
子鍬倉神職　山部正男氏
平第一校長　曾我直治氏
平區裁判所　高益檢事氏
菊田小學校長　吉田正愛氏
江名小學校長　鈴木佐忠氏
平窪村　松本德一氏
平町釜屋總支配人　諸橋守次氏
平町西村屋藥舖　鈴木邦三郎氏

古式弓道に則り
莊嚴裡に催された
射覺院審査大會
去十五日於平鐵倶樂部

「既報」大日本射覺院審査大會は去る十一月十五日午前九時より平鐵道倶樂部に於て開催したがその模樣大略左の如くである

先つ猪狩喜平治氏の開會の挨拶に始まり大久保貞吉氏の矢渡式午前十時大平射覺院長長谷部敎士草野五段審査席に着き來賓櫻井女學校長、磐城中學校職員、高女生等の前に門下生四段以下の審査の幕は切て落さる各自日頃の練磨研精を一箭に捧げ今日を晴れと競いるもの三十有餘名其間晝食休憩時に大平院長の古式禮射は長谷部敎士の介添を以て而も古風溫雅の中汚すべからさる莊嚴に水を打ちたる如く衆目一箭にあつまり大平氏獨特の唱導に係る三玄の要調和式弓道の極美を發揮し体驗を示され妙味謂ふ可らず眞に天下一の感を深からしむ

次で長谷部敎士の禮射は一新機軸を出せるもの大平氏と共に大家たるを思はしむ草野五段禮射も相當の力量を顯はし殊に來賓の參觀ありたるは一段の光彩なりし審査は段位者の査閱を午後二時迄に終り院長は昇段者を發表し各自の講評を行ひ弓道は由來道樂の如く思惟され居たるも我々は弓箭報國の本旨に從ひ常住座臥心惱を練り物に當りて動ぜず應せず能く處し能く辯じ、進退を愼み体心の調和を弓箭によりて其体驗を得んとするものとて弓と心と体と三位一体の必須を說破し現相國も弓道にいそしむも尚ほ足らざるの例を以て門下生に訓諭する處あり一同に深き印象を與へたり後新潟高女に好成績を得た弓道体操を高女生によりて行はせ懇々女子心身の修養に弓道の適切なるを說き胴造り、弓構へ、引取り會、離に至る迄各弓法の起り、体軀上自然に合致するの妙諦を一般に了解せし得るべく平々坦々と說き体操と共に体擊を說示さる。抔例せは胴造りは一般の基礎工事、人の度を失ひし者は「上ガレリ」と謂ふ各人は「ハ子釣瓶」の如く心を下に弓は上にと打上げとか躰と心の結合を引取りは一箭に散意を戒しめ縱と、横とは「十文字」少し出りて「ナ」となるの極意を敎へ會と離には「カンビシ」と人も我も一体に同圓の氣分臍下丹田の妙作用を明にし打手不發の蘊義を盡し斯界の先人の秘訣を一体操に容易にして極意を發せしめ人生の創造体軀の改良自然の現しみと縷々訓へ諭され實に斯界の大家たり天下一人の靈妙なるを思はしめた其「射覺」なる斯道の一小誌に見るも各人各個の大致文一大警醒の大文字なるべし斯道のため世道のため益々先生門下の隆盛を祈りてやまぬ次第である

因に昇段者左の如し

三段	菅野吉治	神俣
四段格	力丸金吉	須賀川
準三段	小松音次郎	平驛
初段	猪狩隆昌	川前
準初段	森本勝二	川前
同	吉田鶴次	永戸
同	吉田英武	大野
同	菊地壽七	川前
同	鈴木守	川前
同	藁谷貞能	永戸
同	阿部久吾	永戸
初段	河內眞一	好間
準初段	藁谷信雄	永戸
同	涌井恒昇	內郷
同	佐藤基吉	小野新町
初段	杉田悅作	小野新町
同	大竹信次郎	同
準初段	小野朝吉	小名濱
初段	小野保	植田
準初段	大平喜治	同
同	飯田秀雄	內郷
同	安藤安弘	同

火災季に當りて
威力ある自働車ポンプを
備へた平消防組

火災季に向つて平消防組では多年の懸案たる自働車ポンプを購入し去る拾九日着車廿一日それが試運轉を六丁目に於て試行し毎日練習を試み祝祭日曜日は朝より他は午後よりして居るが威力あり頗る良好であると因に同ポンプは日本自働車株式會社のロータリ式ハドソン消防ポンプにして價格八千五百圓四拾馬力ありとこれで平消防組では既設のガソリン二臺蒸汽ポンプ一臺手押腕用ポンプ四臺水管車拾五臺消火栓九十七個消火井拾五ケ所尙は今回の自働車ポンプ設備につき同組一幹部は左の如く語る

自働車ポンプは火災の際は疾走するにつき子供や其他がもの珍らしく邪魔に出で怪俄をせぬ樣豫め留意して欲しい同自働車は火災の際は出火所に向つて何物を除いても疾走し得る規則である事を知つて欲しい云々

勞作教育
磐崎高等校

磐崎村高等小學校長柴田正則氏は勤勉貯畜の勞作教育に重きを置き高等科兒童に一坪農業を實施なし去る十一月十九、二十、廿一の三日間に同校に於て父兄有志者の參觀を仰ぎ懇談會等をなしそれが品評會を催したが成績頗る良好であつたと因みに出品物は白菜、大根出品點數三百三十七點農業技手の審査の結果左の兒童入賞したと

▼壹等賞（高一男）佐藤正治、酒井敏雄、淸水武（高一女）富岡タニ、御代ヤイ（高二男）吉田孝一、磯ト文平、吉田正（高二女）大井川キミ

▼貳等賞（高一男）馬目恒夫、大井川八郎（高一男）佐川哲夫、石井英太郎（高一女）酒井ツ子、大平キヨ、本部タケ（高二男）上遠野淸、鈴木圭三、大井川知夫、鈴木正平（高二女）箱崎タケ、木田シナ

▼參等賞（高一男）早坂重美、野木惣二、國井廣長、大井川善吾、佐藤正二（高一女）野木キヨ、大竹ヨテ、伊藤キヌエ（高二男）瀧淸美、志賀武、稻沼與之、高木惠三、佐川房芳、高木伊太郎（高二女）門馬シゲ、磯上フク

第二區聯合
教育研究會

去る十一月二十日午前十一時より磐崎尋常高等小學校に於て第二區聯合教育研究會を開催その模樣左の如くである

▽研究科　修身（尋六）大平女訓導、理科（高二男）右色男訓導午後二時間教授
▽全級公開授業　算術、讀方、球算（午前中敎授）
▽集合セル學校　湯本尋高、湯本尋常（入山）磐崎第一、磐崎第二、渡邊、玉川澤渡、勿來
▽參集せる敎員數八十六名
▽研究發表談話（統計上に表はれたる兒童躰育の向上（首席蛭田訓導）
▽概評　稍良
▽退散　午後六時半
▽柴田校長の感
各位の熱心努力の跡大に良好

在平新聞社
支局の數

◇夕刊…………參
◇旬刊其他…………拾
◇支局…………十二

新聞記者の數の多き全國に冠たりと稱されて居る磐城平に新聞同業者は何人居るか夕刊參社、夕刊以外の社拾社、外に他地社の支局十二であるがその發行人と支局長は左の如くであるこれが政黨的色彩や文化奉仕振りの詳細は逐つてもりする事とする

▼支局通信員
東京日日新聞　一丁目　梱本信一郎
東京朝日　堂の前　八代公行
國民新聞　材木町　半谷政喜
報知　研町　高橋要治
時事　堂の前　樋田久
河北　白銀町　橫山顯
いはらき　十五丁目　柏木哲
福島新聞兼中外　搔揚小路　渡邊文
福島民報　田中　山田磐磨
福島民友　南町　佐藤稔
福島毎日　全　村上榮

▼夕刊
常磐毎日　長橋町　川崎文治
磐城新聞　田町　逐沼龍輔
磐城時報　紺屋町　岡田弘成

▲旬刊
磐城之實業　研町　大和田與平
東北の實業　長橋町　吉村松三郎
磐城經濟新報　材木町　鈴木昌雄
磐城商工時報　田町
磐城立憲新報　櫻町　渡邊源吉
たひら新聞　研町　小泉宗雄
新いはき　白銀町　山田綠雨
磐城新報　諸根勿來
兼茨城日報　白銀町　高木喬
磐城調査新報　土橋　馬目正治
平新報　南町　山野邊庄吉
外に內郷村に
常磐鑛報つるはし社　巻幡常六

草野青訓所員の
野外假設敵演習

去る廿三日正午より草野村青年訓練所員三十餘名は指導員富岡、佐藤の兩上等兵指揮の下に下神谷仲田間附近に於て假設敵演習を行ひ終つて淺原特務曹長の指導檢閱あり柳井校長始め江尻訓導等は秋風寒き中を熱心に陪觀して居つた

ふでやの
景品付大賣出し

湯本町洋品店ふでやにては今回平町二丁目大一屋東隣り元石川洋品店跡に本店を移したがそれが開店祝として十二月一日より三日間景品付大賣出し別項本紙上廣告の通りの大勉强をすると

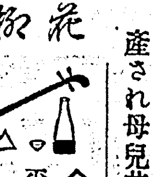
小名濱に於て
消防檢閱

昨廿四日小名濱町に於て小名濱、玉川、鹿島一町二ケ村の消防組檢閱があつた

山野邊辯護士の
御目出度

平町南町辯護士山野邊義政氏夫人久子サンは去る廿三日午前五時二女を出産され母兒共安態である

花柳たより



◇石城出身の平藝妓報に又ある……それは誰あらふ福淸の秀奴さん御當人曰くこう見ゐてもキッスイの平妓ですよごうもあまり小さいので見落したのですからあしからず。テー小名濱でのトン子サンあの豚式がごうしたのか着物ぐるみで十武貫九百五十匁しかないとはこの頃何か案じてかね、まさか迎新の準備を心配してではあるまい子

◇四ッ倉忠臣家の安兵衛時折白髮ダンックと汽車旅行過日廿三日もおそろいで子鍬倉神社一千年祭參詣は似合ふたり〳〵（吉良助）

◇平竹の家へ出だ新妓小蝶は勿來町は窪田にてアタリと稱した芳紀正に十八才の一白の生れである

◇湯本町にはなか〳〵美妓が居る、そのうちでも琴富貴のぽん子新龜には松代先日まで波の音枕で小名濱若竹に居つたツバメ。新蔦には榮子同若丸平富美の家に居つた妓　半玉の奇麗なのでは蔦家の梅子、琴富貴のタマ子等居り復活した湯本溫泉の色街を賑して居るそれはそれとして。

▼九日二更平新田町は松月堂の角に立つて居つた一美人があつた、湯本の琴富貴のぽん子にそつくりの女であつた。準急行でるつもりか何處へか宿るつもりか兎に角終列車に遲れたる事は事實らしいそれ以前この女は青柳や二葉の一葉マツタ末よし等を訪れたらしい此夜ぽん子の行衛こそ疑問である

□……活……□……耳……□……目……□

□滑川磐中校長台灣に旅行盛んに當地諸新聞に通信し居る樣だ、此の先生飽くまで事大思想の持主であるワイ

□福島當りから出張つて來平する役員は良く關係民間者と飲んだり終に歸るべき汽車に乘り遲れて沈沒するのを見うける、如何に役得とは申せ程度を超えぬ樣にして欲しい、ある意味に於ける瀆職であらねばならぬ

□歲末も近きて世はアハただしい氣分になつて來た、各商店の賣り出し、何々忘年會と相當賑つて來るであらふ、但し東都も然りだが品が賣れても貸しになる相だ今迄は品も賣れなかつたのに觀ると必要には迫られて居るが金がないと見ゐる經濟學者、社會學者は此の相を何と評す曰くボーナスと

□湯本、平間の軌道延長問題があつて騷いて居る樣だ時代は進む町議諸君時代遲れの施設に偏すな、一營利會社の手先となり町勢發展を阻すべからず遠き將來を慮るを要す

□火災季が來た、赤湯の風が流む事は未然に各自々々の火の用心が專一である

□本紙の花柳報道に對し時折苦情が出る、筆者の花柳報道紅筆は御客の事をものせぬ方針である、藝妓はよしにつけ、あしきにつけ廣告になるじやないか、スの字とは好きな人「スーチャン」の事であるアマリ氣を廻すべからず○○は○○である自分に覺えがあつたらそうと判じたらよからう、それともアカラ樣に報じますかな（調査紙の如くに）

□平田町某料亭ではお客が少し武勇を發揮したからとて警察に申告し當番の警官の出張をわつらはしたとかである、お客が酒の上で一々亂暴したからとて其筋の力を借らねばならぬなら寧ろ酒も賣らぬが良い、而して相當に飲食料をとりながら無錢飲食等とは何事と武勇を發揮した某氏は頗る憤慨して居ると

開店祝として景品付大賣出しを左の如く致します
▼十二月一日ヨリ
▼十二月三日マデ　三日間
メリヤスシャツ　六十五錢ヨリ
毛ペーチ　一圓四十五錢ヨリ
同ジバン　一圓四十八錢ヨリ
同オーバセータ　三圓四十錢ヨリ
別珍足袋　二十五錢ヨリ
毛糸（一オンス）　十六錢
其他帽子類、子供服、マント、オーバ、茂尻ガイト、トンビ、ショール、首巻等
色々豐富取揃
內外帽子
メリヤス
卸ゴム靴商
平町二丁目拾四
北林俊雄商店
ふでや號

◇重病の方は往診致します
◇毎週日曜日は泉驛前菊田屋旅館に出張致します
鍼灸
電氣マッサージ
訓盲學校卒業
磯上昇
湯本町字吹谷九一
電話呼出六三番

三井吳服店の大賣出し
冬物の御仕度は今！
米綿の大暴落は反物の底直段
木綿特價品
赤木綿　金五拾八錢
木綿裏地　金六拾八錢
正花裏地　金八拾五錢
手拭上等　金六十錢
正紺縞　金八拾五錢
正紺織　金壹圓廿錢
ボーセキ絣　金壹圓廿錢
（着尺モス金參圓九拾錢均一）
（毛糸上太一オンス　拾八錢）
（絹天足袋　白キヤラコ　貳拾五錢）
絹布特價品
錦紗小紋　金拾五圓均一
銘仙　金圓五拾錢
高貴織　六圓五拾錢
八端織　金貳圓也
甲斐絹羽裏
御祝儀物
縮緬江戶褄　金貳拾五圓也
京都別染
丸帶　金拾五圓也
七五三御祝着　金拾五圓也
友仙縮緬
尺三丸帶　金五圓也
特價品各種豐富取揃申候是非御買上の程奉願上候反數に限りアリマス御早く
◇兵隊旗御入用の方へは書記無料奉仕
來る二十七日より五日間